

CCPM使い工程 管理の有用性学ぶ

飛騨三協防災対策協
三方良し技術研修会

飛騨三協防災対策協議会
(水口齊会長)は5月26日、
中部地方整備局高山国道事務
所(増田仁所長)後援のもと、
岐阜県高山市の高山建設産業
会館で「三方良しの公共事業

推進―飛騨地域活性化のため
に―」をテーマに技術研修会
を開いた。写真。



協議会会員57人、同事務所
職員17人の合計74人が参加
し、講演やワークショップを
通じ、住民、企業、行政の
「三方良し」を実現するため、
TOC(制約理論)によるマ
ネジメント手法CCPM(ク
リティカル・チェーン・プロ
ジェクト・マネジメント)を
使った工程管理の進め方を研
修した。

2008日に対し、182・5
日と12%工期を短縮できると
の試算を導き出すなど、CC
PMによる工程管理の有用性
を学んだ。

研修会では、岸良裕司ゴー

ルドラット・コンサルティン
グ・ジャパン代表取締役が、
現場代理人に求められる資質
や人の性(サバ読み)につい
て講演。TOCに基づくCC
PMの内容やクリティカルチ
ェーンを構成する「目標すり
合わせ」「段取り八分」「サ
バ取り」「ゆとり」という4
つの要素を説明した。

続いて、モデル工事を想定
したワークショップを实践。

まず、工事の目標(Objective)
、成果物(Deliverables)、
成功基準(Success Criteria)
からなるODSCを作成。そ
の後、各作業で起こり得る課
題(タスク)を抽出し、タス
クごとに余裕(サバ)を見積
もったところ、想定工事日数

